

「主体的・対話的で深い学び」の実現のために

児童生徒と単元の見通しを共有し、単元のゴールを意識した授業構想を!

1 単位時間の授業を支える基盤として、単元(題材)など内容や時間のまとまりを見通しながら、単元(題材)末に「何ができるようになるか」というゴール(単元目標を達成した子どもの姿)を意識し授業構想をすることが重要です。小学3年生 算数 「あまりのあるわり算」の単元を例に、3つのポイントを示します。

ポイント ~その1~  
児童生徒の実態や  
学習指導要領等を踏まえて  
単元目標を設定する

育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って、3文、もしくは、まとめて1文程度で記述します。

3年生 算数 「あまりのあるわり算」

例 単元目標

- (1) 割り切れない場合の除法の意味や余りについて理解し、それが用いられる場合について知り、その計算が確実にできる。
- (2) 割り切れない場合の除法の計算の意味や計算の仕方を考えたり、割り切れない場合の除法を日常生活に生かしたりすることができる。
- (3) 割り切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に活用しようとする。

ポイント ~その2~  
単元目標を達成した  
子どもの姿(ゴール)を  
明確にする

ポイント~その1~を踏まえ、【単元のゴール】には、単元目標を達成した子どもの姿のイメージを簡潔に記述します。

例【単元のゴール】

余りのある除法の余りの処理について日常生活を想定した問題場面に応じて考えている。

ポイント ~その3~  
単元のゴールを意識して  
単元を構想する

単元のゴールをイメージしながら、各時間のねらいを記述します。

例【単元のゴール】

余りのある除法の余りの処理について日常生活を想定した問題場面に応じて考えている。

【第1時】 既習内容と生活場面による、余りのあるわり算についての動機付けをする。

【第2時】 包含除で、余りのあるわり算の意味を理解する。

【第3時】 除法の意味に着目し、余りはいつも除数より小さくなることを理解する。

【第6時】 日常生活の場面に当てはめたときに、商と余りをどのように解釈すればよいかを考える。

単元のゴールや見通しを、  
児童生徒と教員が共有しながら、  
学習・指導を進めましょう。

○○科学習指導案

指導者名 ○○ ○○

- 1 対象 第○学年○組 ○○名
- 2 日時 令和○年○月○日 ○曜日 第○校時 ○:○~○:○
- 3 場所 ○○年○組教室、○○場、○○実習室等
- 4 単元(題材)名・教材名
- 5 単元(題材)の目標
- 6 単元(題材)の指導計画(全○時間)
  - 【単元のゴール】
  - 第1時
  - 第2時
  - ...
  - 第○時
- 7 本時の目標
- 8 本時の展開(○/○)

| 過程    | 学習活動 | 学習形態 | 指導上の留意点 | 評価規準【評価の観点】(評価方法) |
|-------|------|------|---------|-------------------|
| 導入○分  |      |      |         |                   |
| 展開○分  |      |      |         |                   |
| まとめ○分 |      |      |         |                   |

ICT 活用の視点についても、必要に応じて計画し明記します。

各時間の評価が、「単元(題材)の指導と評価の計画」のどこに位置付けているのかを明確にします。指導に生かす評価の機会については「◇」を、児童生徒全体の評価を総括の資料にするために記録に残す評価の機会については「◆」を付けて記します。

参考資料 「学習指導案ハンドブック」  
京都府総合教育センター(令和3年3月)